

東北公益文科大学

第1期 吉村プラン

平成26年～平成28年

～地域に根ざし、世界に発信する教育・研究拠点～



2014年10月10日



東北公益文科大学
学長 吉村 昇

東北公益文科大学の学長に就任し、半年が経過しました。4月に舵取りを委ねられたときから、東北公益文科大学の魅力的な姿について私なりに折に触れて述べてきました。6ヶ月間の助走期間を終え、私は本学が直面している課題や向かうべき方向性を指示するべき時期にあると思っております。

東北公益文科大学のこれからの活動をどのように進めていくかを「教育」「研究」「社会貢献」「国際化」それに「運営」の5本の柱を立て、それぞれについてアクションプランを策定いたしました。

私は新田理事長はじめ理事長補佐、理事、監事、学長特別補佐、学長補佐、学部長や教職員の方々と力を合わせ、「本学で学ぶ人々」と「本学で働く人々」を大切にす魅力ある大学に発展していくために努力してまいります。皆様のご理解とご協力をお願いしてやみません。

2014年10月

吉村 昇（よしむら のぼる）

1943(昭和 18)年新潟県生まれ、秋田市に育つ。1969(昭和 44)年 秋田大学大学院電気工学専攻修士課程修了。1975(昭和 50)年 工学博士(名古屋大学)。1983(昭和 58)年より秋田大学鉱山学部教授、1995(平成 7)年秋田大学鉱山学部長を経て、1998(平成 10)年より秋田大学工学資源学部長(初代)を歴任。2008(平成 20)年 国立大学法人秋田大学学長(2014年3月で任期満了)。2014(平成 26)年4月 東北公益文科大学学長に就任。受賞歴として、1994年国際素材物性学賞受賞、1995年秋田市文化章受章、1999年電気学会産業応用部門功労賞受賞、2010年電気学会家田賞受賞、2011年河北文化賞受賞、2013年秋田県文化功労者表彰受賞他、多数。2014年から独立行政法人大学評価・学位授与機構認証評価専門委員。

東北公益文科大学4つの基本目標を持って、
「学習者中心」の大学としての教育活動を推進します。

基本教育目標

1. 社会の変化に柔軟に対応できる教養と専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、「信頼」と「共生」を基本に公益の社会づくりに貢献できる人材を育成します。
2. 地域の文化・福祉・経済の発展に貢献できる人材を育成します。
3. グローバル化社会に通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を育成します。
4. 学長のリーダーシップの下、上記目標を達成するため柔軟な運営体制を構築します。

教 育

学習者(学生)中心の大学として、豊かな人間性と倫理性を養うとともに、グローバルな視野を持ちながら、地域の人々とともに、地域社会が直面する課題にリーダーシップを持って果敢に取り組む人材を育てます。

留学や長期インターンシップ等、学生の多様な活動をより活発化させることを目的に、 Semester制（前期・後期）から「クォーター制（年4期）」へ学年の移行を進めます。 **NEW**

I. グローバル人材の育成を強化します。

1. 国際教養コースの専門科目は、原則として英語による少人数授業を行います。 **NEW**
2. EAP 教育（基礎英語集中プログラム）の導入を進めることによってグローバル人材育成の大学づくりを目指します。 **NEW**

II. 地域の発展に貢献できる人材の育成を強化します。

1. 地域の雇用や活力を生み出す人材育成（起業家等の育成）のため、ベンチャーマインドの醸成を図り、インターンシップの強化を目指します。
2. 地域の福祉に貢献する人材は、これからの社会で確実に必要とされる分野です。今求められている高齢者、障がい者、児童への支援を担う社会福祉士等資格試験合格のためのサポートを充実・強化します。（取得できる福祉資格の拡充と取得支援）
3. 地域の活性化、発展に対応できる地域リーダーを育成します。法律、経済、地域課題解決演習などの科目を充実させるほか、公務員試験合格のためのサポートを拡充・強化します。

III. 学生支援体制を強化するため、学習支援、学生生活支援、キャリア支援、地域活動、国際交流の各センター機能の整理を行います。 **NEW**

名称	機能
教育推進センター	「教育システム改革、教育力向上を通じた人材育成」
学生支援センター	「個別の学生対応を通して一人一人を大切にす支援」
キャリア開発センター	「学生の進路実現を多面的にサポート」
地域共創センター	「地域との連携を通じた学生、地域の人材育成」
国際交流センター	「留学促進と留学生受け入れ促進を通じた人材育成」

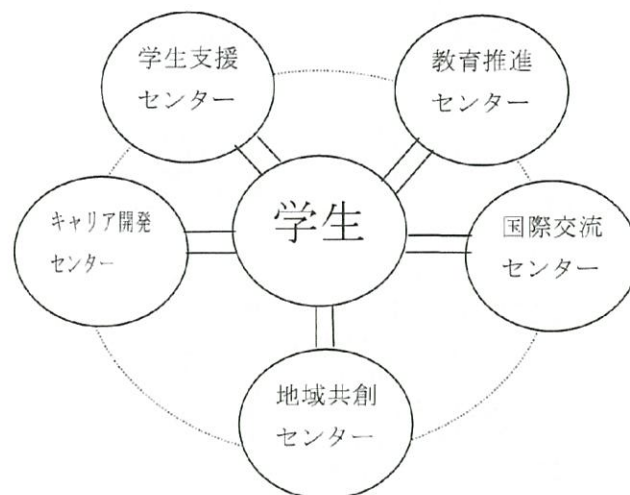
入学前から卒業まで、5つのセンターが学生一人ひとりを大切にした支援を行います。

【教育推進センター NEW】

学生の学びを総合的にサポートします。

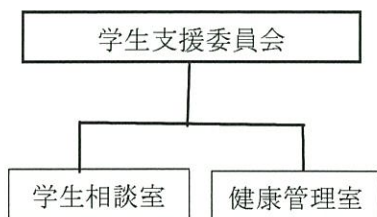
- ・ 入学前学習、高大連携
- ・ 学修支援
- ・ リメディアル教育の強化
- ・ グローバル教育
(EAP、英語、中国語等)

教育推進委員会



【学生支援センター NEW】

学生相談、個々の状況に応じた学生の生活、経済、教育上の支援や寮（ドミトリー）生活に関すること、課外活動（クラブ・サークル）等の支援を行います。



学生生活上の支援

【キャリア開発センター】

キャリア支援、就職の的確な支援を行います。
インターンシップ等、企業様との窓口業務を行います。

キャリア開発センター運営委員会

【地域共創センター】

学生の地域活動を支援します。

地域共創センター運営委員会



学生の学びを総合的にサポート

【国際交流センター NEW】

短期留学制度、外国人留学生の受け入れや
交換留学等に係る大学間協定締結を進めます。
(5 ページ参照)

国際交流企画会議



寮(ドミトリー)生活の支援

研 究

大学における学術研究活動は、教育との両輪をなすものであり、教員は社会の様々な課題に果敢に取り組む必要があります。

そのため、各教員の個々の研究活動を支援し活性化を図るとともに、大学の組織としても、学際的・総合的なアプローチが必要な課題に対応できる研究体制を整えます。

I. 教員の研究活動支援を行い、研究活動の活性化を推進します。

1. 学内研究費において、研究に対するインセンティブを高められるよう配分します。
2. 外部研究資金の獲得のための支援体制を整えます。
3. 研究を行いやすい環境の整備を図ります。
(知財支援、研究活動におけるガイドライン・ルールの整備、女性研究者活動支援など)
4. 研究者総覧 (**NEW**) を整備し、産学官連携活動等に活用します。

II. 機能的な研究体制の整備をします。

1. 社会の様々な課題に対し、時宜にかなった研究が組織的に行うことができるように、公益総合研究センターをイノベーション創出研究機構に改編します。**NEW**



酒田キャンパス



鶴岡キャンパス

社会貢献（地域貢献）

庄内地域の知の拠点として、地域住民や行政と連携して地域課題の解決に挑戦するとともに、地域の人材育成に積極的に取り組みます。

I. 地域と連携し、地域課題の整理と共有、調査・研究を行い、解決策の提言と活動等を行います。

1. 庄内オフィス、地域共創センターが中心となって、地域が抱える課題の解決や地域資源の活用について、自治体や地域住民と協働で取り組みます。
2. 子どもから、中・高校生、社会人と幅広い年代を対象とした地域カレッジを展開します。生涯学習の機会を提供するとともに、科学・学問への関心興味を高めるため、大学の知的資源を広く提供します。

II. 地域志向のカリキュラムにより、地域での多彩なフィールドワークを展開し、地域課題の具体的解決に取り組みます。

1. 学部カリキュラムで地域志向の科目を展開します。積極的な学びと行動で地域を知り、課題解決に向けての方策を探るプロセスを具体的に推進します。



大学生による小学校での授業



地域志向カリキュラムによる鶴岡市加茂地区での演習



地域住民と一緒に地域課題について話しあう「地（知）の円卓会議」

国際化

グローバル社会に対応し、カリキュラム、教育方法を見直し、海外への学生派遣、留学生交流や国際学术交流などを包括して行う国際交流センターを新設します。21世紀の国際社会が求める戦略的な人材育成を行います。

I. 国際交流センター(NEW)に国際戦略担当を配置します。海外との交流として以下の項目に取り組みます。

1. 海外への学生派遣、相互交流を充実します。

- (1) 外国の大学との学生・研究者の交流に向けた協定校の充実を目指します。NEW
- (2) 海外からの交換留学生の受け入れを充実します。NEW

2. 教育・研究のグローバル化の対応

- (1) 国際教養コース等の専門科目は原則として英語で授業を行います。NEW
- (2) 国際的学術研究を推進します。NEW
- (3) EAP教育(基礎英語集中プログラム)を導入し、英語に強い学生を育てます。NEW

II. 国際交流戦略を推進するために、1名の専任教員を採用し、日本語教育の充実に努めます(国際交流センター専任教員)。NEW



中国・黒龍江省の大学生との交流



米国・カリフォルニア州の学生との交流

運 営

大学運営において、学長のリーダーシップによるガバナンスと大学マネジメントの強化を図り、責任ある執行体制を充実させます。企画、実施、評価、改善のサイクルを明確にし、戦略的な大学運営を行います。

- I. 大学戦略会議、戦略会議推進室を設置し、以下について推進します。
 1. 学長補佐（教員 2 名）及び学長特別補佐体制を構築し、迅速な大学運営を推進します。
 2. 中期計画の P-D-C-A を毎年実施します。
 3. IR 担当を配置し、大学データの分析、戦略的体制を推進します。
 4. 平成 28 年度の認証評価に向けた準備を進めます。

- II. 教育効果の点検・評価のため、点検評価委員会を機能させ、不断の評価を推進します。

- III. 学長、学部長、研究科長、学長補佐（教員 2 名）、学部長補佐（教員 2 名）を中心とした教員人事委員会を再編し、採用、昇任について審議をします。

- IV. 男女共同参画、ワークライフバランスのできる制度・環境の整備を進め、アクションプランの実施に努めます。

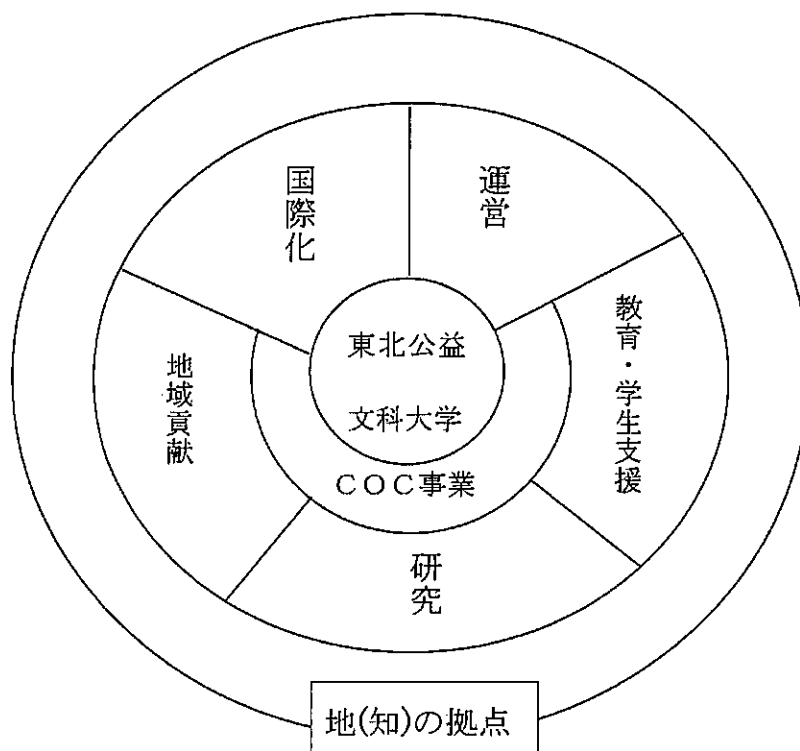
- V. 各関係委員会間の連携を推進し、入学者の確保に努めます。

- VI. 東北公益文科大学図書館の略称をメディアセンターから「公益大図書館」に変更します。

- VII. 大学院教育のグローバル化を進めます。新たにアジアビジネスサポート人材養成講座を設置します。原則英語での授業の実施や海外インターンシップの実施、海外からの留学生受け入れのほか、社会人を積極的に受け入れるなど、学習歴社会の展開を図ります。

- VIII. 公益大大学院修了生からの教員の採用に努めます。

東北公益文科大学 地(知)の拠点整備事業(coc 事業)概念図



東北公益文科大学 地(知)の拠点整備事業が掲げる

7つの課題 (庄内地域が抱える複合型課題)

- ① 就業機会・雇用の創出
- ② 交流人口の拡大・観光産業の創出
- ③ 農商工連携・6次産業化の推進
- ④ 地域エネルギー対策
- ⑤ 主体的なコミュニティ組織
- ⑥ 中山間・離島地域の集落維持
- ⑦ 空き家・空き店舗等中心市街地の空洞化



東北公益文科大学

Tohoku University of Community Service and Science

〒998-8580 山形県酒田市飯森山三丁目5番地の1

電話 0234-41-1111 FAX 0234-41-1133

<http://www.koeki-u.ac.jp/>